ニコ〳〵主義實行者
狩獵弓術にも天狗黨

不動貯金銀行大津支店長

宮本朋一郎氏

出身地　和歌山縣有田郡五村三瀬川
現住所　大津市阪本町三十三

勤儉力行は何人も之れを說くところだがなか〳〵言ふべくして行ひ難い仕事だけに多くの人が中折をする。それと同じこと貯蓄といふことも欠くべからざることは判り切つて居るが得てして餘裕が少々出來てもツヒ浪費し易いもので貯蓄といふことは六ヶ敷い。といふのもその貯蓄を最も簡單に愉快に手輕く出來る樣な指導機關が整備して居れば左程に難事ではない筈。現に特殊の方法で之れを奬勵して居る不動貯金の業績がダン〳〵と伸長してゆくのが其の立派な証據である。不動貯金大津支店長の宮本氏は明治二十三年十一月六日の生れ、三十八年三月高野山中學を卒業して四十四年十一月不動貯金に入社し和歌山支店勤務、大正四年九月一日湯淺支店、五年九月一日和歌山支店へ轉じ、十五年一月十日大阪支店、昭和二年二月十五日名古屋の調査主任。昭和七年五月一日湯淺支店長昭和九年二月一日四日市支店兼桑名支店長、七月一日大津支店長に轉じた家庭には八重夫人との仲に一男があ

廣島高等師範の出身で
縣下の教育に終始一貫

滋賀縣立大津高等女學校長

三輪菊三郎氏

出身地　名古屋市中區東田町
現住所　大津市別所町

教育者殊に中等學校以上の教職に在る人はよく就任地を轉々するもので、その度に轉々する人にしても又之れを迎へる方にしても所謂馴染が淺いといふ不快な場合が隨分多いものだが、之れは又珍らしくも學窓を出て以來終始一貫して同一縣下の而も同一都市に教鞭を執り縣下教育界のため献身的努力を拂ひつゝあるといふ氏は明治十九年十二月十四日に名古屋市に於て生れ、三十九年三月愛知縣立第一中學校を卒業し、廣島高等師範學校に進み、明治四十四年三月同校を卒業して翌四月滋賀縣女子師範學校の教諭となつて就任。爾來他に轉任することなくその間大正六年に同校舍監となり九年從七位に叙され、十四年六月從六位を賜はった。そして大正六年八月に滋賀縣立大津高等女學校長に轉じ、昭和九年十二月勳六等を賜はり昭和十年四月高等官三等待遇となり、同時に從五位に叙されて今日に至つて居る

昭和御大典の悠紀齊田供米御用に浴した光榮

帝國在郷軍人會愛知聯合分會長

三木佐右衛門氏

出身地　愛知郡日枝村
現住所　愛知郡日枝村

氏は明治十八年一月十九日の生れ三十五年三月彦根中學を卒へ三十七年十二月一年志願兵として由良要塞砲兵隊に入り三十八年軍曹に進み、四十年六月少尉に任官、九月正八位に叙され、昭和三年十一月從七位に叙し、大正七年五月中尉に進んだ。村内屈指の大地主で今日まで國勢調査委員・消防組頭、在郷軍人郡聯合會副會長青年團長、日枝分會長等を永らくつとめ、昭和三年六月まで十二ヶ年村助役を勤め、大正十二年村會議員に當選して昭和四年再選、信川組合長としては昭和四年四月からつとめ斯く公共事業には偉大の功勞を樹て寄附行爲其他で謝狀、表彰狀の數は數へ切れない程受けて居る。殊に昭和御大典に際して畏くも悠紀齊田候補として御選定を受け大嘗祭典儀御用の新藁の供納、大饗第一日に地方献物色目の藁莚を供納した。在郷軍人會功勞者として年々特別大演習に御召の光榮にも浴した昭和九年五月在郷軍人會敦賀支部協議會長に推薦された

大阪保險代理店協會長 大阪土地協會幹事も勤む

ローヤル保險株式會社總代理店主

水野醇三氏

出身地　大津市石山鳥居川
現住所　大阪市東區安土町一丁目

氏は明治十七年十二月十四日元酒造業保井源七氏の三男として生れ資產家水野家に入りて改姓した縣立膳所中學に學び、關西大學法科に進み、三十九年同校卒業して直後大阪稅關吏となり官吏生活に在ること三ヶ年辭して恰もその時創立された神戸海上火災保險株式會社に入り地方課長となり大阪支店の開設に努力して大正七年會社を退き、暫く靜養中であつたが、大正十年大阪東區高麗橋一丁目の現住所に地所部を設け、更に保險部を新設し、主として神戸海上火災運送保險、共同火災、東京火災東京海上火災等各保險會社の代理店を開き一面西曆一八四五年の創立で本店を英國リバープールに有し總資產四億九千萬圓を擁すると言はれる世界有數の大保險會社ローヤル保險株式會社の日本總代理店の權利を得て内地保險會社の再保險を取扱ひ逐年その業績は隆昌を加へるに至つた今日では東京市麹町區丸ノ内三丁目三菱四號館に東京支店等を開設した、家庭は京子夫人との仲に一男がある

艶麗なる山水花鳥に豪華の氣溢れる畫才

元日本繪畫專門學校講師

柴田晩葉氏

出身地　大津市新町
現住所　京都市吉田中大路町

氏は明治十八年九月二十四日孟敬氏の次男に生れ本名は成敎。京都市立美術工藝學校を卒業後更に同じ市立繪畫專門學校に學び之れを卒業して傍ら京都外語學校を卒業、歐米美術の文化と日本美術研究に精進し山元春擧畫伯に師事し、大正十一年より十四年迄繪專校に講師となり其の間第六回文展に「湖畔の春」第八回に「耕作」を出品入賞し、殊に「耕作」は官選されて桑港大博覽會へ日本の代表美術として出品され受賞し、第十回文展に「青田」第十二回に「茶つみ」昭和二年帝展に「谷間の溫泉」同六年帝展に「つり池」を各出品入選してその畫才はいろ〳〵光輝を發揮し來つた。爾來帝展に出品一般の好評裡に傑作續々と發表されつゝあるが、氏の得意とするところは寫生的風光畫であつてこれは斷然他の追隨を許さぬものがあり、殊にその山水花鳥を描くや艶麗にして而も豪華なること驚くべきものがある。家庭には夫人とみ子さんとの仲に一男二女がある

銀行界を退いて雌伏機を見て起つた活動家

近江モータース株式會社專務取締役

正圓利三郎氏

出身地　大津市下堅田町
現住所　大津市四宮町

阪田郡六莊村字山村に生れ廿一歳にして明治十五年大津に出で油行商から身を起し赤手空拳奮鬪力戰遂に大津實業界の大立物となり、大津商工會議所會頭となり其他諸會社重役、縣市會議員等と飛ぶ鳥を落す勢力家となつたが惜しくも大正十一年長逝した故西田利七氏の性格は正圓氏へ其儘承け繼がれて居る氏は明治卅一年五月の生れ故西田利七氏の二男で正圓家に入つた人であるが大正六年三月八幡商業を卒業して早稻田大學商科に進み、九年三月同校を卒業して京都の藤田銀行支店に入社したが同銀行が三十四銀行と合併したのを機として銀行界を退き、暫らくは大勢傍觀、令兄が利七氏を襲名し嚴父の遺業たる油商の傍ら近江モータース株式會社を興して店務は多忙を極め而も將來の見込充分であるので令兄と協力大成せんがため會社に入り專務取締役となり、縣下にゼネラルモーター網を張るべく大活動を續けて居るのである家庭には幸子夫人との仲に二男一女があり、極めて圓滿である

政友會滋賀縣支部長
縣下屈指の政治鬪士

立憲政友會顧問代議士

清水銀藏氏

出身地　野洲郡中里村西河原
現住所　大津市神出町

氏は明治十二年一月彦次郎氏の次男として生れ大正十五年家督を相續した。明治三十一年東京麻布中學を卒業し早稲田大學に入り三十五年同校英語政治科を卒業し、三十六年九月愛國生命保險株式會社に入社し、大阪、京城、各支店を經て名古屋支店長となり、更に本社の總務部長となつたが大正八年九月に會社を辭した。嘗て日露戰爭の直後朝鮮及び滿洲の視察をなし、大正八年には北滿、南支の視察を試み、更に昭和四年には孫逸仙氏の慰靈祭に時の政友會總裁犬養木堂氏に隨行して渡支した。夙に犬養翁に私淑して曩に國民黨に入黨して本部幹部の席に列して居たが革新倶樂部と改稱犬養以下が政友會と合流するに及んで氏も又政友會に入黨した。昭和二年九月の總選擧に代議士に當選し更に昭和三年二月及昭和五年二月改選ともに當選し昭和七年二月四度の榮冠を得政友會滋賀縣支部長に就任本部に於ては顧問に推薦されてゐる、家庭には夫人彌惠さんとの仲に二男四女がある

東京帝大文科の出身で
宗教傳導にも得意の人

大阪商業學校長

清水大樹氏

出身地　阪田郡大原村居田
現住所　大阪市外吹田町一三七六

東洋のマンチエスターと稱される大阪市は日本代表の商工業大都市である。此の大阪市にて商業教育を施しつゝある大阪商業學校に校長をつとめて慈父の如くに慕はれて居るのが清水氏である。氏は明治五年三月十二日龍照氏の長男に生れ、二十四年三月京都府立第一中學校を卒業し第三高等學校に入り二十七年三月卒業更に東京帝國大學に進み、三十五年七月同校文學部を卒業。爾後中等教育、高等教育、實業教育と五ヶ年餘に亘つて各地に轉動し、一面非常な信仰家であるため純粋の宗教傳導に依つて世道人心を導いたこともあつた。大正五年九月大阪商業學校長として就任し爾來二十年間に垂んとする間一日の如くに熱心に而も高き人格に依つて幾千の優秀生を卒業させ來つたのである。氏は此の校長の外に主なる關係公職としては全國實業學校會大阪府下私立聯盟私立中等學校協會全國商業學校協會の各理事大阪府中等學校長會常任幹事等をつとめて居る家庭は達子夫人との仲に一男がある

保險業の全課程は一順
體驗した理想的手腕家

仁壽生命保險株式會社本店調査課長

下鄉市造氏

出身地　阪田郡長濱町
現住所　東京市麹町區内山下町一

氏は下鄉市次郎氏の長男として明治三十年十一月二十二日長濱町に於て生れ、同町の小學校を卒へて京都府立第三中學に學び、早稲田大學商科に入りて大正十一年同校を卒業した。そして保險界の人となるべく決意し折角斯界の人となる以上は保險業の課程は一順悉く體驗するにあらざれば完全なる手腕の主とは言へないといふ鐵則のもとに奮起し、早稲田卒業直後仁壽生命に入り、本社勤務となり先づ重役の秘書係から始めて契約、統計、外事、徵集、保險金、貸附等の各課を一巡し、その上重役とともに全國各支店を巡視すること約一ヶ年斯くて保險業の實際に最も秩序的經驗を積んで東京支店詰となり、續いて名古屋支店助役を經て長濱支部長となり滋賀縣一圓を統卒したが、昭和三年七月一日金澤支店長となつたのを振出しに四年二月京都支店長、五年二月神戸支店長に歷任し七年三月再び京都支店長となり昭和十年一月本店調査課長に就任した家庭には夫人みさをさんとの仲に二男二女

國學の研究東洋趣味
の研究は一方の權威者

日本生命保險株式會社京都支店長

下鄉寅吉氏

出身地　阪田郡長濱町
現住所　京都市聖護院岡頓美町

氏は仁壽生命保險の社長として將又社會事業の大功勞者として、下鄉同族會社の社長として其他實業家としても餘りにも有名なる下鄉傳平氏の長男である。明治三十九年五月五日の生れで長濱町の小學校を卒へ京都の同志社中學から同じく同志社大學の豫科を修め、同志社大學經濟部に入り、昭和七年三月卒業したが、嚴父傳平氏が既に仁壽生命の社長でありそれ等の關係上から仁壽生命に入社するのが順序の樣に考へられるが、そこが下鄉氏の傑いところで「他人の飯を食はねば人間は駄目だ」といふ骨肉の愛に惑溺せぬ樣に「可愛い子には旅をさせ」のたとへで同じ保險事業ではあるが日本生命保險へ一社員として入社させた。そして庶務係、契約係と貴重な體驗に精進し昭和十年一月に京都支店長となつた氏は國學研究に熱心で兼て東洋趣味の研究にも識見を有し黑板勝美博士に隨行し各地を視察又二十一歳の時歐米各國へ十ヶ月餘り旅行した家庭には夫人文子さんとの仲に一女がある

東本願寺派僧籍出身で
岩倉公舊蹟保存會囑託

京都殖産株式會社取締役

下郷良順氏

出身地　阪田郡長濱町北畏服
現住所　京都市右京區龍安寺住吉町元

氏は明治二十九年二月二十四日東本願寺の末寺の願養寺の長家に長男として生れたが思ふところがあつて家督は令弟に讓り、自分は母方の實家下郷家の名を嗣ぎ大正九年七月二十九日に入籍手續を完了して下郷姓を名乘ることになつた人である、長濱小學校を終へて京都中學に入り大正八年三月同校を卒業して同年五月下郷共濟會の文書庫長となつたが、十年八月一身上の都合でこれを辭し、大正十五年七月京都殖産株式會社の取締役に就任した。此の取締役に就任するまでに大正十三年一月原工業株式會社の取締役に就任したが、その取締役は今日尙その椅子に在る。氏が取締役になつて居る京都殖産株式會社は京都市内に於て今日其の勢力は日一日と一般に認められて來て業績の見るべきものがある、又財團法人岩倉公舊蹟保存會の囑託を受けて此の方面にも活動してゐる趣味は讀書、旅行にして家庭は夫人信子さんとの間に三女がある

實業界に於ても成功し
公共慈善事業も功勞者

仁壽生命保險株式會社々長

下郷傳平氏

出身地　阪田郡長濱町字田
現住所　東京市澁谷區伊達跡八八

氏は明治五年三月十六日の生れ、幼名寅吉、三十一年五月嚴父の逝去で家督相續傳平を襲名。第三高等學校から慶應義塾理財科に學び前田正名翁に私淑して翁に隨ひ東北巡遊、二十七年二十三歳にして生糸商開業、三十三年佛國パリに渡り萬國博を視察歸朝後滋賀縣輸出蠶糸同業組合長に推され、大日本蠶糸會滋賀支部長もつとめ、三十七年多額納税議員として貴族院議員に當選、長濱町長となつて町政にも盡し日露戰役中長濱奉告會々長として銃後の活動をなし勳四等に叙し旭日小綬章を賜ひ、實業界では近江製糸株式會社長、大阪中之島製紙の經營等もしたが就中仁壽生命を興して社長となり今日の社運を拓いたことは功績中の功績で、一面公共事業として、長濱圖書館の建設開放伊吹山觀測所建設其他氏の公共的事業並に關與せる實業界の各方面に亘る事業は到底限りある紙面に盡せない程で下郷共濟會の如きも其の一つである、今日迄紺授褒章及其の飾版を賜つたのを見てもわかるであろう

父祖の業を嗣ぎ五年
今は大阪船主會幹事

下村汽船株式會社々長

下村健一氏

出身地　犬上郡彦根町
現住所　大阪市南區松屋町八ノ一

一時我國の海運界は餘りの財界不況に祟られて不振を極めてゐたが隣邦滿洲國の建國、素晴らしい邦品の海外進出、商工業の激盡等にて最近に於ては海運界の勢は非常なものであり、隨つて各汽船會社の事業はます〳〵多忙を極め、それと同時にその經營者は非凡の手腕家でなくてはならぬことになつて居る。その手腕の主に下村氏がある。氏は明治三十四年二月三日故下村耕次郎氏の長男として生れ、大正八年三月桃山中學校を卒業して明治大學に進み大正十四年三月同校政治經濟科を卒業し、同年四月一年志願兵として歩兵第三十八聯隊に入營し、同隊經理部に轉じ、昭和二年四月陸軍三等主計に任官、同時に正八位に叙されて歸鄉。昭和四年十一月十六日嚴父耕次郎氏の長逝で嚴父が經營中であつた下村汽船株式會社の專務取締役となり、後社長に就任して今日に至つて居る又大阪船主會の幹事をつとめ外に東洋加工綿業の取締役及び日本電解製鉄株式會社の監査役をもつとめてゐる。

奇策縱横の其の手腕
縣下銀行界の大御所

滋賀銀行專務取締役

廣野規矩太郎氏

出身地　犬上郡彦根町字江戸
現住所　犬上郡彦根町字江戸

湖國金融界の王座を占めた百卅三銀行の頭取をつとめ雄飛した織藏氏の長男として氏は明治十八年一月に生れ、三十六年彦根中學を卒業し、第一高等學校を經て東京帝大に入り四十五年七月同校法政科を卒業、卒業直後見込まれて横濱正金銀行に入り在勤八ヶ年、實務を體得して歸鄉し、大正九年一月嚴父織藏氏の片腕として新智識を以て百卅三銀行に入り、專務取締役となり、同年は財界未曾有のパニックに襲はれて倒産頻々各地に悲鳴を聞く裡に儼然として微動だもせず否寧ろます〳〵隆昌を加へて昭和二年の恐慌來にも侵されず、同年十二月高島銀行、三年十一月寺庄銀行、五年七月淡海銀行を合併し營業區域を三重縣下に迄擴張するといふ發展振を見せ、昭和八年十月八幡銀行と合併して滋賀銀行となるや專務取締役の重職につき、縣下銀行界の大御所となつた。外に滋賀貯蓄取締役頭取近江信託、湖東汽船兩社の取締役等をもつとめて居る家庭には夫人薫子さんとの仲に三男三女がある

將來華城財界の雄將
總條件に惠まれた人

大阪農工銀行副支配人

弘世正一氏

出身地　犬上郡彦根町
現住所　兵庫縣武庫郡住吉村

我が國生命保險界に斷然頭角を拔ん出て居る日本生命の社長弘世助太郎氏の名は今更らしく喋々するに及ばぬが、此の助太郎氏の令弟弘世正二郎氏が又令兄に劣らぬ大阪の農工銀行頭取といふ樞要位置に在つて華城財界の重鎭として光り輝いて居る。今我國に存在する農工銀行といふのは數に於ては左程多くはないが、その代り實力は何れも優秀なものであるが、大阪農工銀行は此の農工銀行界のナンバーワンとして斷然他の追隨を許さぬものである。此の頭取弘世正二郎氏の長男として明治三十五年一月二十四日に生れたのが正一氏で、今は助太郎氏の嗣子となつて居る。昭和二年三月早稻田大學商學部を卒業して、その翌月日本勸業銀行に入り、銀行事務の實際に携はり、昭和七年に大阪農工銀行に轉じその副支配人となり將來の雄將たるべき修養中である家庭には夫人保子さんとの仲に一男二女がある

苦難時代の農工を復興
東京帝大政經出の俊才

大阪農工銀行頭取

弘世正二郎氏

出身地　犬上郡彦根町沼波
現住所　兵庫縣武庫郡鷲影町

氏は助太郎氏の令弟で明治七年十月二十六日の生れ、彦根中學から第二高等學校を經て二十八年七月東京帝大政治經濟科に入り三十二年七月同大學卒業。間もなく大藏省に入り構濱稅關に勤めたが本省の銀行局に轉じ金融行政について研究するの機會を得た時恰も大阪農工銀行は大阪府の公金を北村銀行と共同保管中北村銀行の破綻に依つて十萬圓餘の金を農工銀行が肩替りとして引受けたのであるが、當時資本金五十萬圓の農工銀行としては十萬圓といふ負擔は非常な苦痛であり、其他いろ〳〵の事情も滯在して同行內部の大整理を必要とするに至つたので大藏次官阪谷芳郎氏や嚴父助三郎氏等の薦めで三十六年年齒僅か二十九歲にて大阪農工銀行常務取締役に就任し英斷を以て大刷新を圖り異數の進展を見せ遂に大正六年井川頭取の後を亨けて頭取に推薦されて就任今日に至つたが現在債券發行高五千八百萬圓諸貸付七千萬圓資本金七百萬圓積立金六百十四萬圓で年一割配當の成績を擧げて居る

片岡直溫氏の後繼者で我國の生保協會理事長

日本生命保險株式會社々長

弘世助太郎氏

出身地　犬上郡彦根町
現住所　兵庫縣武庫郡住吉村

氏は助三郎氏の三男として明治四年十二月九日に生れ彦根中學校を卒業して第三高等學校に進み同校卒業後一年志願兵として服務中日清戰爭が起り陸軍二等主計となつて出征勳六等に任ぜられた。凱旋後三菱合資會社銀行部に入り在勤二ヶ年、日本勸業銀行に轉じ之れ又在勤二ヶ年にして山口銀行に轉じ同行に在ること八ヶ年。此の間日露の風雲急を告げて第二師團輜重兵第二大隊附として召集され滿洲に渡り、鴨綠江、遼陽、奉天、鐵嶺の各地に轉戰して軍功を樹て三十九年春凱旋し勳五等旭日章を賜はつた。四十一年十月故片岡直溫氏の後を亮けて日本生命保險株式會社に入り專務取締役となり爾來手腕を揮ふこと頗る痛快遂に日本生命をして我國屈指の大會社たらしめ、氏又大阪財界の大立物として雄飛するに至つた、現在會社の社長たる外我國生命保險協會理事長をつとめて全國的に名を知られて居る、家庭はてつ子夫人との間に三女があり令弟正二郎氏の息正一氏を養子に迎へた、

八幡銀行小店員時代から四十五年終始一貫振

滋賀貯蓄銀行常務取締役

東茂三郎氏

出身地　蒲生郡八幡町
現住所　蒲生郡八幡町

氏は明治十一年三月八日の生れで八幡尋常小學校を卒業して二十三年十二月一日十三歳の時に八幡銀行へ採用された勿論小學校を出たばかりで給仕の役もつとめ雇員の役もするといふ風で實地について一生懸命に見學勉强すること實に四十二年間。此の間に於て本店はもとより八日市、大津、日野、水口、愛知川等の各支店に轉勤して各地の異れる人情、土地の事情等を詳さに體驗して貴重なる修養は充分に積まれ、水口支店、愛知川支店及本店の支配人となり更に本店に於ては調査部長となつたが各支店に轉勤して充分に體驗を積んだためその調査部長としての手腕は一頭地を拔いた鮮かなものがあつたといふ。そして昭和六年四月二十四日本店の營業部次長となり、八年五月十六日には遂に營業部長の椅子を贏ち得た八年十月一日百卅三銀行と合併されて新たに滋賀銀行となるや選ばれ八幡支店長に就任し昭和十年三月滋賀貯蓄銀行の常務取締役に就任嗣子三郎氏は目下第一銀行に勤めて居る

功成り名遂げて閑居
西陣織物更生の恩人

平井同族株式會社々長

平井仁兵衛氏

出身地　犬上郡豐郷村西一十九院
現住所　京都市清水産寧坂北清水

氏は万延元年十二月十六日の生れ。幼名小三郎八歳の時塾に學び、明治九年十七歳の時推されて總代となり、十三年四月戸長となり十六歳の時辭し、十八年三月實弟に家を讓つて京都に出で、伯父に當る平井仁兵衛氏の養嗣子となり連綿たる家業の呉服商に從事し、養父の長逝て家督相續襲名し、二十四年平井銀行監査役となり、日露戰爭當時西陣織が不振の極に陷入つて居たのを西陣救會といふのを組織して更生に盡して遂に成功。四十年商工會議所議員に當選、同年鄉里に進農會を興して基金五千圓を寄附し會長に推され、後法人として農事改良の奬勵機關たらしめ昭和四年に更に一萬圓をこれに寄附し其他恩賜濟生會へ一萬圓昭和大典奉祝會へ一萬圓豐鄉村役場建築へ二千圓其他巨額の公共事業に寄附をなして居る功成りて店舗を令息に讓り今日に到つた。功に依り紺綬褒章を賜はり表彰感謝狀は山をなしてゐる。

京都帝大醫科の出身
松尾内科仕込の俊才

醫學博士　醫師

平川廣氏

出身地　鹿兒島市千石町四八
現住所　大津市桝屋町

氏は明治二十八年二月十八日の生れで薩南の士氣に哺まれたる果敢の人、鹿兒島第二中學を卒業して第七高等學校に進み、更に京都帝國大學醫科に入り、大正十年七月同大學を卒業、直ちに斯界の權威とされて居る松尾内科教室に入り研究に浸頭して大正十四年八月醫學博士の學位を受けた。此の松尾内科は今日全國に幾多の俊才を送り出して居る教室であつて、氏も此の俊才中の俊才として手腕を認められた人で、大正十四年に鄉里鹿兒島市へ飯つて醫師を開業したが、更に一層研究を志して六年目の昭和五年再び上洛して松尾内科教室に入り研究を續ける傍ら、健康保險醫を囑託されて大津市に勤務し、昭和九年八月に埼玉縣川越市の武州病院へ聘されて院長となつたが、昭和十年五月大津市へ飯り來つて内科小兒科專門醫を開業したのである。趣味としては弓道と菊の栽培で家庭には夫人壽美さんとの仲に一男一女がある

廣島高師英語科出身
從五位で高等官三等

滋賀縣立大津商業學校長

平田傳與門氏

出身地　愛知郡稻枝村彦富
現住所　大津市尾花川町

氏は明治十九年九月二十四日の生れで三十九年三月滋賀師範を卒業し大正二年三月廣島高師英語科を卒業。同年卒業直後に長崎縣立師範學校に教諭として教鞭をとつたのが振出しで、大正五年四月には京都府立第四中學校の教諭、大正六年十一月には兵庫縣立第二中學校教諭となつたが、大正七年九月依願退職して十月日本商工株式會社に入社し、翌八年十月株式會社常盤商會へ轉じたが十年二月退社して再び教育會に入ることゝなり、同年二月退社早々縣立八幡商業學校に教諭として奉職高等官七等を以て遇され、同年十一月從七位に叙された。十二年十二月には高等官六等に進み、翌十三年四月には更に五等に進み、十五年五月には從六位に叙されて縣立長濱商業學校の校長に榮轉したのであろ昭和四年九月には高等官四等待遇となり同時に正六位に叙され、翌七年三月縣立大津商業學校長に榮轉し來つた昭和八年高等官三等待遇同時に從五位に叙されて校の内外から信望を一身にあつめて居る

京都帝大法科の出身
卒業直後鐵道生活に

門司鐵道局運輸課自動車掛長

平野玄雄氏

出身地　甲賀郡石部町
現住所　門司市濱見鐵道官舎

氏は明治三十年八月一日龍玄氏の三男として生れ福井市の北陸中學を大正五年に卒業して鐵道院中央教習所業務課を鐵道省給費生として卒業したのが大正九年七月であつた。此の間大正六年六月鐵道院屬を拜命して梅小路驛貨物掛として勤務しながら勉强した。大正十一年七月京都帝大法科に入り十四年七月卒業し、翌十五年一月書記に任ぜられて京都驛勤務となり、改札、出札、小荷物、車掌、吹田機關庫、經理課、湊町驛等に實務の修業をなし同年秋に高等文官試驗に合格し、昭和四年四月に湊町運輸事務所の營業主任となつた。此の營業主任になる迄に高文をパスした人が實務勉强のためには雇驛員と同樣に忍苦修業して來ねばならぬところに貴重さがある。昭和五年一月大阪運輸事務所主任に昇進し、同年十二月には鐵道省副參事とり高等官七等の待遇で從七位に叙され昭和七年三月大阪鐵道局徳島出張所長に轉じ更に門鐵運輸課自動車掛長に轉じた。家庭は佐多夫人と一男一女がある。

政治家望月長夫氏の息
支那の事情にも精通家

三井物産機械部調査係主任

望月克二氏

出身地　大津市松本町
現住所　東京市杉並區高圓寺一ノ三

何といつても我國の對外的大商人と言へば三井、三菱と何んでも第一に指を屈する、事實海外如何なる邊陬へ行つても此の兩大會社の勢力の屆いて居ないところはないと言はれて居る。その双璧の一方たる三井物産の機械部に調査係主任をつとめる望月氏は明治二十七年八月一日の生れで嚴父長夫氏が縣下選出代議士として名を馳せたことは今更いふまでもないことだが氏はその次男に生れ大正三年三月膳所中學校を卒業し第三高等學校を經て東京帝國大學獨法科に入り大正八年三月同校卒業、卒業して間もなく三井物産に入社して初めは大阪支店勤務となり、續いて東京本社に轉じて文書課に勤務して繁錯なる事務を明快に處理してゆく手腕の鮮やかさに上海支店といふ國際的に面倒な支店に轉勤を命ぜられ、此に於てもよくその手腕を發揮して信望ます〳〵加はり、昭和七年に東京本店へ呼び返されて機械部の調査係主任といふ地位に就いた家庭は敏子夫人との間に一女がある

主家の破綻に發奮し
獨立忍苦しての成功

絹布卸商

森富次郎氏

出身地　神崎郡八幡村神郷
現住所　靜岡市兩替町六丁目

氏は明治十四年三月八日甚兵衛氏の長男として生れ土地の小學校全科を終へて多くの縣人後輩が辿る通りお手近の京都に出で塚本喜左衛門商店に入り少店員として商業の實地見習をしたが、其後同郷出身の人で靜岡市の兩替町に堂々たる店舗を有する佐野松治郎商店に紹介する人があつて轉じたのであるが此の佐野氏は不幸にして商業上の蹉跌が因をなして破綻の已むなきに至り氏又在勤八ヶ年といふ貴重な努力も華を見ず實も結ばずなつたので茲に志操堅固なそして天禀の才を備へた氏は發奮して他人に使はれて居てはうだつの上ることは六ヶ敷からう、よし成功しても遲くなるに定つて居る之は一番獨立して奮闘努力、自分の運命は自分で開拓せねばならぬとばかりに絹布卸商を開業して寢食を忘れて勉强して歩一歩とその地盤を開拓してゆくことに努めた。そして店舗は兩替町六丁目に置き自ら陣頭にたつて店員を激勵し業績逐日隆昌に赴いた家庭には夫人とよ子さんとの仲に四男一女がある

經濟通で『適才適所』
操觚界で積んだ經驗

東株取引員組合書記長

森　孫一氏

出身地　大津市御藏町
現住所　東京市本郷區駒込林町一豈

一口に新聞記者と言つても社會部記者の如く只飛車張目、足を資本に駈け歩くのもあれば、政治、經濟擔任の如く世界の大勢に通じ常にデリケートな外交關係にまで透徹した智識を有し、機敏な頭腦の働きを生命とするのもある。就中經濟記者となるには人一倍の勞苦がある。何となればその一文の誤報は財界の大渦を卷き起すことがあるからである。森氏は明治十八年二月二十二日和一郎氏の長男として生れ、三十六年三月膳中の第一回卒業生で熊本第七高等學校に入つたが感ずるところがあつて中退東都に出で、生活戰線上に起つ傍ら勉學に餘念なく經濟學を修め、四十二年神田に於て操觚界に入り、經濟方面を擔當し健筆を揮ひ、よく財界の動向を指導し來つたが、その手腕を先輩に認められて、大正元年東株取引員組合が設立せられるや同時に推薦されて入り書記となつて活躍し手腕と度胸とを認められ、大正十二年書記長に進み今日に至つた家庭はなを子夫人との仲に一男がある

八幡御三家の老舗で
謙讓而も開放的な人

近江帆布株式會社々長

森五郎兵衛氏

出身地　蒲生郡八幡町新町
現住所　蒲生郡八幡町新町

氏は明治十年五月七日森專三郎氏の長男に生れ二十三年先代本家森五郎兵衛氏の養子となつて前名俊次郎氏を襲名に依つて改名した三十一年大阪商業を卒業、三十六年慶應義塾卒業後家業に關係し八幡銀行、八幡製糸の取締役をつとめ、四十二年八幡町長に就任、町會議員學務委員等をつとめ大正十一年實父の後を承けて近江帆布社長に就任した。元來森家は八幡御三家と稱される財閥で「森五」と稱し遠く二百八十餘年の昔に煙草、麻布、木綿、呉服類の商店を開業し正德四年には東京店を開店して爾來大正十二年關東震災まで十六回の災厄に罹りながら基礎ます〳〵鞏固に昭和五年着工六年八月日本橋區本石町二丁目に「近三ビル」と稱する七階建の大建築を完成し、地、一、二、三階を森五支店に使用し以上各階を貸室にし、大阪にも嘉永年間東區本町二丁目に支店を開設し隆々と東西呼應業績を擧げて居る。今では近江帆布に全力を傾注して日本一の製布帆布會社に仕上げたのである。

蠶糸農業水産業界に可ならざるは無き人

滋賀縣水産組合長縣會議員

森　幸太郎氏

出身地　東淺井郡竹生村
現住所　東淺井郡竹生村

氏は明治二十二年七月二十日の生れで最初彦根中學に入學したが嚴父の長逝にて中退、家業の蠶種製造を繼ぐため長濱農學校に轉じ、三十九年三月同校を卒業し家業を營む傍ら蠶業技術員として活動し大正二年大津市農會技手となり、四年四月退職して歸村し信用組合を設立して七年より昭和二年迄蠶種同業組合長をつとめ其間大日本蠶業同業組合中央會議員、近江米同業組合代議員、大日本蠶業會協議員、滋賀縣蠶糸諮問會員等をつとめて只管蠶種の改良に力を致し縣下の養蠶業はそれに依つて發達すること夥しいものがあつたのである。昭和二年九月に縣會議員改選に當選、參事會員に選ばれ五年十一月には近江水産組合代議員に選出され、六年九月に縣會議員に當選して參事會員になつた。昭和八年九月琵琶湖水産販賣購買組合と近江水産組合との多年確執せるを互讓解消ぜしめて併合する事に盡力して滋賀縣水産組合の成立を見るに及び代議員に當選し昭和九年一月初代の組合長となつた

紙類輸入商の體驗家　觀海流の水泳は初段

和洋紙卸商藪田商店々主

森田敏男氏

出身地　大津市下榮町二二
現住所　大津市元會所町一番地

明治三十八年六月十三日房次郎氏の長男として生れ大正十三年縣立大津商業卒業、翌十四年一年志願兵として歩兵九聯隊に入り昭和四年三月歩兵少尉に任官され同時に正八位に叙された。大正十三年學校卒業直後大阪南久寶寺町株式會社紙類輸出入商萩原商店に入り昭和二年六月輸入部員に轉じ部長を補佐し、三年七月海外より歸朝した部長稻垣正憲氏が取締役支配人となるやその秘書役となり、四年一月九州地方販賣主任となつて販賣部に轉じ、六年七月退社歸鄉家業に從事し縣の特産たる近江賣藥の發展を期して大原附近に支店を開設し昭和九年七月油日村に販賣所を設け、同じく九月には株式會社ポプラ藥化學研究所の大株主となり調査部長に擧げられた。氏の店は藪田商店と號して東京堀井膽寫堂の滋賀特約店をつとめ大倉經營小田原製紙株式會社滋賀縣特約店にもなつて居る。氏の趣味は觀海流の水泳、散歩等姉弟五人あり家庭には實母きく子さんが健在である。

大阪高工電氣科の出身
京阪電鐵に終始し來る

太湖汽船株式會社常務取締役
森田象一氏
出身地　愛媛縣周桑郡小松町
現住所　大津市東浦町二二一

氏は明治二十二年七月二十二日の生れで三十九年三月に受媛縣立西條中學校を卒業し大阪高等工業學校に入り四十四年七月同校電氣科を卒業した。在學中からその成績を見込まれて卒業の直後京阪電鐵に懇望されて入社し、同社の發電所增設工事を擔當して工を完成し、四十五年三月大津電車の建設課長としてその建設を完成した上で大正三年十一月京阪本社へ復歸工務主任となつた。大正七年に運轉課に轉じ運輸係長となり、大正十四年十二月電氣事業視察のため社命に依つて歐米各國に出張、先進國の發達せる電氣事業殊に電鐵經營の狀況を詳さに視察して十五年十一月に歸朝した。そして電氣課長に昇進し傍ら阪和電鐵の囑託を受けて同電鐵の敷設に關する技術の指導をなし昭和五年八月に囑託を辭して同時に京阪電鐵をも辭して同年十二月二十一日太湖汽船に入社してその常務取締役となり今日に至つたのである家庭にはたみ子夫人との仲に三男がある。

八幡、山口銀行の體驗家
詩文と彩管は玄人を摩す

大阪農工銀行監査役
瀨川保治郎氏
出身地　蒲生郡鏡掛村
現住所　京都市西洞院魚棚南

氏は明治十年十一月十一日市右衛門氏の二男として生れた。そして經學と詩文とを京都の西龍安寺に在る老儒寺西乾山翁に就て學び來燕山房詩社及行樂吟社等に於て詩作を闘はしてメキ〳〵と上達し一面書法を須賀蓬城氏に習ひ、南畫を水田竹圃畫伯に師事して學び傍ら、明、清時代の名蹟を研究に熱中しその作畫は日本美術協會展に入選してその技倆は全く圓熟したものである。氏は號を霊山と稱し虛白洞閑人又は水明莊主と言ひ彩管に親しみ、一選成れば一詩を賦して娛しむといふ人。又一面に於て陶器の趣味も深く自ら土をとつて作陶茶器文具に非凡の腕を見せるといふ多趣味の人である。氏は幼少にして八幡銀行に入り後大阪に出でて山口銀行に入り更に大阪農工銀行に轉じて爾來精勵恪勤傍目もふらぬ勉强振りにその手腕はメキ〳〵と上達し自然に地位も累進し支配人となり遂に監査役に進み、今は華城財界に於て重要地位を占むるに至つたのである

京阪電鐵に廿年間在勤
乘合自動車界の人氣男

京阪自動車株式會社常務取締役

關口貞雄氏

出身地　兵庫縣赤穗郡赤穗町
現住所　京都市東山區山科御陵鴨戸

氏は明治二十年七月廿四日に生れ姫路第十師團に入りて除隊後交通事業の將來有利なることに着眼して、當時恰も京阪財界の重鎭達を中心として澁澤榮一氏等が京阪間に電鐵敷設計畫中であつたのを知り好機逸すべからずと二十三歳にして同計畫に携はり、京阪電鐵入をしてから二十有餘年間勤續、渡邊社長以降歷代の社長に仕へ、大正九年二月乘客掛長となり、昭和二年事業掛長を兼任するに至り翌三年事業掛長專任となり翌四年八月京阪電鐵大津營業所長となり、昭和五年八月京阪自動車株式會社の常務取締役として活動をして居る外に昭和六年より京都乘合自動車專務取締役、同八年より河內乘合自動車常務取締役をつとめ、六年から八年迄の一期間大阪タクシーの取締役もつとめ、其他に現在關係せるものは日本乘合自動車聯合會常任理事、京都府乘合自動車組合副組合長、京阪電鐵、太湖汽船の各囑託、日本乘合自動車聯合會京都支部長をつとめて居る家庭は夫人との仲に二男二女がある

滿蒙の既得權擁護主張
全滿日本人聯合會理事

衆議院議員

仙波久良氏

出身地　犬上郡彥根町大工町
現住所　大連市薩摩町六九

久健氏の長男として明治十六年十二月の生れ、四十三年四月家督相續をした人。三十五年彥根中學を卒へ東京遊學中日露戰役の起るや大本營附として出征特務機關の重任に當り偉功を樹て、平和克復將來の發展は滿蒙を措いて他に無しとして渡滿、南滿鐵道に入り勤續十ヶ年餘、大正五年退いて東洋石材會社を創立常務取締役となり其他二三の鑛山會社經營に當り、昭和三年十月大連市會議員に當選參事會員となり、同時に全滿日本人聯合會理事に推され、日支合併の奉天競馬公司の發起人ともなつた。昭和六年滿洲事變の勃發するや日本人の時局後援會常務理事に選ばれて滿蒙に於ける既得權擁護と對支强硬外交政策を高唱し、政府當局の鞭撻に努め、全滿代表として歸朝活躍中政變があり、自己の主張と政見を同じくした犬養內閣の時に主張貫徹のため起つて代議士候補者となり目出度當選した雄辯家でスポーツマン、殊に水泳に長じ萬左子夫人との仲に一女がある

師範中學女學校に通じ
模範的な教育の所有者

滋賀縣地方視學官教育課長

杉本一郎氏

出身地　阪田郡息長村字能登瀬
現住所　大津市松本町

氏は明治二十三年一月十七日の生れて四十二年三月滋賀師範學校を卒業、廣島高等師範に入り數學、物理、化學部を大正三年に卒業京都帝國大學理科大學に入り昭和二年三月同校卒業をしたがその滋賀師範を卒業した四十二年鳥居本小學校訓導として教鞭を執り、翌年廣島高師入學のため休職となつた。そして廣島高師を卒業した大正三年四月愛媛縣立師範學校教諭、大正五年四月和歌山縣立師範學校、九年一月新潟縣立新潟中學校同年十一月滋賀縣立彦根高等女學校教諭に歴任し高等官七等待遇となり、十一年十二月六等に仟じ十二年一月正七位に叙され、翌十三年帝大に入學した。そして京都帝大を卒業して直後愛知縣立第一中學校教諭に任ぜられ翌三年三月彦根高等女學校長として赴任、五年八月從六位に叙し高等官五等となり、七年一月地方視學官となつて滋賀縣學務部教育課長に就任し、同年三月高等官四等に昇つて今日に及んで居る。氏は眞に理解ある視學官として好評を博して居る。

昭和十年七月一日印刷
昭和十年七月五日發行

（定價五圓）

不許復製

著作兼發行人　大津市菱屋町一番地　奥村永吉
印刷人　大津市白玉町廿八番地　赤間金太郎
印刷所　大津市白玉町廿八番地　隆榮堂印刷所

發行所　大津市菱屋町一番地　滋賀日出新聞社

春ハ石山●坂本のサクラ

夏ハびわこ●水泳

秋ハ石山寺ノ名月

冬ハマキノスキー場

坂本 — 三井寺 — 濱大津 — 唐崎 — 石山寺

京都

京阪間特急34分・急行38分

大阪・京都・大津 直通急行72分

大阪

ビワコ 畔御遊覧には巡遊券で!!

(甲)石山驛一石山寺一三井寺(又ハ逆)24錢

(乙)坂本一石山寺一石山驛(又ハ逆)47錢

(丙)三井寺一石山寺一坂本(又ハ逆)57錢

大津線全線巡遊券 70錢

京阪電車

びわ湖島めぐり

—竹生島長命寺詣で—

京阪丸 午前10時出帆
午後5時30分歸着

賃金 2圓30錢
(大津より)

◈出航日◈

3月15日より
10月まで毎日
11月は23日までの
日曜●祭日毎

近江八景めぐり

—三井寺●石山寺詣で—

午前11時濱大津出帆
午後 3時30分 歸着

◈辯天丸●明治丸●大正丸◈

賃金 1圓20錢
(大津より)

◈案内書呈上◈

太湖汽船

—大津市—

京阪電車
省線連絡
あり

電燈・電力・電熱・供給事業

京都電燈株式會社大津支社

支社長　炊殿雄一郎

大津市松本松ケ枝

電話代表番號　一五七〇番

株式會社

滋賀縣農工銀行

大津市阪本町

電話一一一・六五九・八九三番

八日市支店　神崎郡八日市町大字金屋　電話二六番　郵便振替貯金口座大阪五六三四五番

長濱支店　阪田郡長濱町大字東本　電話四二四番　郵便振替貯金口座大阪五七八九一番

日野支店　蒲生郡日野町大字大窪　電話一六二番　郵便振替貯金口座大阪八二九三九番

彦根支店　犬上郡彦根町大字土橋　電話五五四番　郵便振替貯金口座大阪八二八六〇番

資本金　七百五拾萬圓
積立金　壹百八拾萬圓
諸預金　五千貳百萬圓

株式會社　滋賀銀行

大津市阪本町

電話（代表番號）（一五五一）（長一五五四）・一五五一・一五五二・一五五三・長一五五五・一五五六

支店（北國町（大津市）、坂本、膳所、石山、草津、石部、守山、速野、野洲、江頭、中里、八幡驛前（八幡）、安土、能登川、彦根、東（彦根）、西（彦根）、磯田、多賀、愛知川、五箇莊、八日市、山上、櫻川、下田、日野、內池、水口、貴生川、寺庄、大原、信樂、堅田、安曇、大溝、新儀、今津、山科（京都市）、上野（三重縣）

出張所

取締役頭取　梅村甚兵衛
取締役　廣野規矩太郎
常務取締役　野間庄治郎
常務取締役　增田源藏
取締役　西川甚五郎
取締役　森五郎兵衛

取締役　大橋彌一郎
取締役　上原海老四郎
監査役　福井治三郎
監査役　岡伊右衛門
監査役　小嶋助治郎
監査役　津村政之助

貯

株式會社

滋賀貯蓄銀行

大津市橋本町

電話一三三九番

取締役頭取　廣野規矩太郎
常務取締役　東茂三郎
取締役　中村寅吉
取締役　安居喜八
取締役　井狩彌左衛門
監査役　野間庄治郎
監査役　福井治三郎
監査役　小嶋助治郎

御室料

御一人樣ベッド付　金六圓

御二人樣ベッド付　金拾圓

御食事

朝壹圓・晝貳圓・夕貳圓五拾錢

一品料理も致しますす

午後のお茶金五拾錢

"すまひ願用利御に會茶御會宴御々精"

國際觀光

琵琶湖ホテル

大津市柳ケ崎

電話(代表)壹五壹六番

落